

輝いています

埼玉県中学校英語弁論大会 優勝

ひと

きむらなの
木村 奈乃 さん

自信をつけてつかんだ優勝



感情豊かにスピーチをする木村さん

英

語で自身の主張を発表して競い合う中学校英語弁論大会。その県大会が9月28日に開催され、第二中学校3年生の木村奈乃さん（14歳・北町5丁目）が、蕨市代表として初の優勝に輝きました。英語が好きな母といっしょに、赤ちゃんの頃から英語に触れていた木村さんは、日本語を話す感覚と同じように英語を話すことができます。最近では、洋画を見て、字幕と直訳のニュアンスの違いなどを楽しむのがマイブームです。そんな英語が得意な木村さんは、昨年初めて弁論大会に出場。市大会は優勝しましたが、蕨市・戸田市の二市大会で敗退となりました。リベン

ジとなる今年のテーマはジェンダーレス。トランスジェンダーの子どもたちの問題を知り、「特別なことではなくみんな同じ人間。みんなできつよにしよう」と思いを込め、原稿を作成しました。迎えた市大会では、緊張と不安で頭が真っ白になり、悔しくも3位に。二市大会へは駒を進めました。しばらく落ち込んでいましたが、先生や親友に励まされ、気持ちを切り替えると、不安を克服するべく練習を重ね、徐々に自信を取り戻していきます。二市大会では納得のいくスピーチで優勝。その後の県大会では、「親友たちがくれた寄せ書きをポケットに忍ばせ、力をもたせて臨めました」と仲間への支えもあり、持ち味の流暢な発音や笑顔、磨いてきた表情で伝える表現力を最大限に出し切り、優勝という快挙を達成しました。今後は中国語や韓国語も勉強したいという木村さん。将来の夢は小児科の看護師で、自分の語学も役に立てられれば嬉しいと語ります。優しい心を持ち、勉強を続けた先にはきっと明るい未来が待っていることでしょう。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品
蕨にあり

—No.79—



晩斎筆「晩斎楽画第三号 化々学校」
明治7年 沢村屋板 大判錦絵
本作品は現在の展覧会で御覧いただけます



詳しい内容は美術館のホームページを御覧ください

今からちょうど150年前の明治5年（1872）に学制が施行され、西洋式の教育が実施され始めました。鍾馗の先生は鬼の子たちに絵などで教えますが、河童の子どもたちは「シリコタマ」（尻子玉）や「キウリ」（胡瓜）などの言葉をローマ字で学んでおり、欧米化の波が妖怪の世界にも及んだという風刺が表現されています。門前払いとなり、頭を抱えたりひっくり返ったりする妖怪などもおり、妖怪の学校もなかなか狭き門のようです。

河鍋晩斎記念美術館 開催中（23日まで）

企画展「逢魔が時—晩斎が描いた妖怪変化—」展
同時開催 特別展「『晩斎百鬼画談』の世界」展

開 館＝午前10時～午後4時

休 館＝火・木曜日、毎月26日～末日、年末年始

ところ＝南町4-36-4

入館料＝一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円

65歳以上500円

※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証のご提示を

詳 細＝同館（☎441・9780）

Kyosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎

天保2年（1831）

～明治22年（1889）